

建部邀吾 （以下） 社會學者、文學博士。明治四年二月二十一日越後國新發田生れ、昭和二十年二月十八日歿（七七一—九五五）。號千香、水城、水城學人、水城生、水城迂人、水城邀吾、水城陳人。明治二十九年帝國大學文科大學を高山樗牛、坂崎剛風、桑木嚴實等と同期卒業。次いで大學院に進み社會學を専攻。二十一年ドイツ留學、歸朝後東京帝大社會學講座の初代擔當教授、日本社會學院を設立主宰するほど日本に於ける社會學の開祖。また對ロシア主義論七博士の一人として有名。大正十一年衆議院議員、のち駒澤大學教授、昭和十二年貴族院議員。

著書の「陸象山」「自傳錄」、明治二十年七月十五日哲學會院）、『哲學大觀』（明治二十一年四月二十八日金港堂書籍株式會社）、『世界時言』（明治二十九年十月二十日同文館）、『戊申留書衍義』（明治四十一年三月五日同文館）、『宗祖觀』（他十、二各合著、明治四十四年四月二十五日京都・小笠原秀實編輯）、『世界列國の大勢』（増補改訂縮刷・大正三年十一月二十一日同文館）、『山東經營策』（松浦厚著、青島游記）大正四年五月二十八日壽西又次郎編輯附録）、『新興國の青年』（大正四年六月十二日莫衷社出版部）、『社交生活と社會整理』（大正十五年五月十八日新日本社）等。他に、父建部藏軒の遺稿集『藏軒存稿』（昭和十年十月二十一日私家版）を編集出版、自ら解題した「拙著目錄」を附載してゐる。



る。

